

令和3年度国際理解ワークショップ 進行シート

令和 4年 8月 9日作成

大学名： 新潟県立大学

タイトル： ファッションとSDGs～エコを目指してクローゼットの中を見てみよう～

1：本ワークショップの要旨

私たちの身近にあるファッションに視点をおき、環境保全の重要性を伝える。ファストファッションをはじめ、衣類製造に関する現状・問題点を理解し、その問題に対して私たちはどのような取り組みができるのか、サステナブルファッションなどを例に挙げて共に考えていきたい。これは、SDGs 目標 12・13に関係している。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

本ワークショップでは、衣類の製作・使用・廃棄を通して発生する環境への影響とそれらの諸問題に対しどのような対策が行われているのかを知ってもらう。また、それを通して改めて自分自身で生産者側、消費者側の視点に立ち、衣類の製造・使用・廃棄の流れを創造してもらう。ワークショップを通して、身近にある衣類という製品から自分たちも諸問題に対し取り組めるのだと理解してもらい、環境保全に向き合ってもらいたい。

3：本トピックをとりあげる理由

私たちが普段着ている衣類は、安価なものから高価なもの、大量生産されているものから少量生産されているものなど、多種多様である。また、私たちは普段の生活の中でそんな衣類の生産・廃棄過程に触れる機会は少ない。そこで、私たちに身近な衣類の普段は触れない視点から、問題の課題解決について取り組むことで、日常の中でも課題解決に取り組めることに気づき、これからの行動のきっかけにしてもらいたいと考えたからである。

4 : 活動過程

(使用時間 : 80分 参加人数 : 17 (英語班))

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反応、 その他注意事項
導入 : 起 (20分)	自己紹介 (1分)	国際交流ファシリテーターについて		パワーポイント	
	ワークショップの概要説明 (1分)	これから行うワークショップの概要を説明する	ワークショップの目的を明確にする		
	アイスブレイク 「アイデアリレー」 (5分)	課されるお題(現在未定)から連想されるワードをリレー形式で書き出す	緊張をほぐす グループ内の共同作業によって仲を深める	白紙 ペン	グループで協力して行ってもらう
	「エネルギーワーク」 (8分)	衣服の製作過程でどれだけのモノや人が関わり、エネルギーが消費されているかを考える	予め自分たち予想の予想を立てることで、想像と現実の差異を知ってもらう	白紙 ペン	グループで協力して行ってもらう
	他のグループと共有 (5分)	他のグループとどのような案が出たか共有する	自分たちが考えなかったアイデアや考え方をしるため		

<p>展開：承 (20 分)</p>	<p>クローゼットの中を見てみよう</p> <p>衣類と諸問題の説明①</p> <p>衣類と諸問題の説明②</p>	<p>自分が持っている服・買う服はどんなものか確認してもらおう</p> <p>ファストファッションの定義と環境問題、労働問題の説明</p> <p>エコなファッションに向けた取組を説明</p>	<p>身の回りの衣類から考えることで、WSの内容を身近に感じてもらおう</p> <p>本ワークショップにおける基礎情報を理解してもらおう</p> <p>取組を知ってもらい、プラスの面もある事を理解してもらおう</p>	<p>パワーポイント</p>	<p>クイズに答えてもらおう</p>
<p>発展：転 (30 分)</p>	<p>服屋さんごっこ(30分)</p> <p>説明 (5分)</p>	<p>洋服店を市場から仕入れるところを重視して出店してもらい、企業側と顧客に分かれ、ロールプレイをしてもらおう。洋服店を複数出店してもらい、利益を競う。</p> <p>前半は服屋作りをし、後半は購買活動を行うこ</p>	<p>なるべく実際の企業に即した洋服屋を作る中でサステナビリティと利益について考えてもらおう。サステナビリティと利益の両方の実現が困難であることを理解してもらおう。</p> <p>ゲームを理解してもらおう</p>	<p>パワーポイント</p> <p>コードが印刷された用紙、偽札、サステナビリティバッチ、値札、リサイクルカード、サステナブル賞、景品</p>	

		とを説明する。 利益を最も多く出した服屋を勝ちにする。			
	服屋作り (10分)	6グループに分かれてもらい、グループごとに服の仕入れを行う。その際環境保全などに関与している服を市場に混ぜる。	利益を重視するのか、環境保全を重視するのか、実際の企業側の気持ちを味わってもらう。		ワークの説明の理解が複雑であるため、補助を行う。
	購買活動 (10分)	テーマにそった買い物を行ってもらう。例) 親へのプレゼント	資金を制限することで実際の購買活動のように環境によいものだけを買うことができないことに気づいてもらう		
	共有 (5分)	各グループの利益を発表。環境にもっともよかったグループも発表。	企業側だけでなく消費者側も変わることが大切		

<p>まとめ：結 (10分)</p>	<p>ワークショップ 全体の振り返り</p>	<p>特に重要な話や 伝えたかったこ とを再確認する</p>	<p>今回紹介し た方法以外 にもいわゆ るファスト ファッション ではなく、 少し高い服 長く着ると 長い目で見 るとお得で あり衣服ロ スにもつな がりにくく、 使い終わっ た服をフリ マアプリな どのリユー スに回す。な ど環境保全 へのアクシ ョンは様々 である。あな たの行動を 一つ変え、そ れを継続す ることが大 切であるこ となどを伝 える。</p>		
-------------------------	----------------------------	--	---	--	--

5：新型コロナウイルス感染症拡大防止のための工夫や留意点

対面で行う場合は、健康観察、マスク、手洗い、消毒をし、生徒とファシリテーターとの間隔を十分にとる。

6：会場のセッティング（対面の場合のみ）

4～6人1グループで活動を行えるようにする。

7：使用する教材

ペン

白紙

コードが印刷された用紙

偽札

サステナビリティバッジ

値札

リサイクルカード

サステナブル賞

景品

8：参考にした資料

[パタゴニア アウトドアウェア \(patagonia.jp\)](http://patagonia.jp)

https://ethicalhouse.jp/blogs/ethical_knowledge/sustainable_label

参考資料は各派遣校と内容を相談したうえで、適宜追加していく予定です。

9：その他